特集

第53回 全国消防救助技術大会

2025.08.30

兵庫県立広域防災センターで開催された全国消防救助技術大会に出場した隊員のコメントを紹介します。

水上の部　基本泳法　第１位

東住吉消防署　消防士長　髙瀬　渉

局是記章「強実章」受賞（令和７年９月17日）

水上の部の「基本泳法」という種目で全国１位を獲ることができました。今年は兵庫県での開催でしたので、たくさんの方々が応援に来てくださり、関西が一丸となって盛り上がることができた大会だと感じました。

私は、昨年、一昨年と悔しい思いをしたため、３回目の出場となる今年は、全国１位になるために今までよりもたくさんの訓練をしてきました。誰よりも泳ぎ、日本の消防士で一番泳いだと胸を張って言えるほど泳ぎました。基本泳法は、自身の泳力が全て、の個人種目の為、訓練は孤独で自分の気持ちと戦う毎日でした。しかし、私には、昨年の悔しさからの明確な目標と、昨年の大会で全国１位になった２人の先輩という大きな存在があったので、孤独な訓練のなかでもモチベーションを高く維持することができました。４月からの約４カ月間、全国１位になることだけを考え、休日も自分の泳ぎを研究したり、競泳選手、水球選手の泳ぎを真似てみたりと、大学時代と同じような努力と青春を味わうことができました。

本番当日は、自己ベストを更新することができず、自身の弱さも感じましたが、良い緊張感の中で訓練でき、今後の課題も得ることができました。

４月から始まった近畿地区指導会強化訓練では、自分の技術と知識、現場での反省、現場での冷静さ、に繋がる、基本技術から応用技術、失敗を重ねて成功させる終わりのない努力、本番で実力を発揮できるメンタルの強化など、現場活動でも必要とされることを学ぶことができました。

消防人としても成長できる環境に自分がいられたこと、そして、送り出してくれた所属の方々に感謝しています。これからも、自己研鑽を続け、所属や大阪市民へ還元できるように、終わりのない努力をしていきたいと思います。

最後に、私たちを支えてくださった事務局の皆様、指導員、家族へ感謝しています。この全国１位は全員で掴み取ったものだと思っています。本当にありがとうございました。

陸上の部　はしご登はん　第１位

西消防署　消防士長　　香川　大也

局是記章「強実章」受賞（令和７年９月17日）

この度、第53回全国消防救助技術大会「はしご登はん」訓練において全国１位入賞という結果を大阪市消防局に持ち帰ることができました。

これもひとえに、皆様の手厚いご支援をはじめ、家族の理解や協力があってのものです。長期にわたり、お力添えをいただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

思い返すと、初の近畿強化隊員に選出されたのは５年前。憧れの“大阪ゼッケン”を手にした時は本当に誇らしく、大阪市消防局の代表としてのプライドと先人の方々が築き上げてきた救助魂や長い歴史に大きな責任を感じ、身の引き締まる想いになったことを今でも鮮明に覚えています。

今大会を含め、近畿大会には３度出場させて頂き、今回が【三度目の正直】。やっとの思いで全国消防救助技術大会へとコマを進めることができました。私自身の近畿大会出場は三度目ですが、全国の大舞台でスタート合図を貰うまでには、８年の歳月を要しました。

今回、その集大成を最高の結果で締めくくることができ、心の底から嬉しく思います。全国大会当日は、「凡事徹底」、いつも通りのことをいつも通りに行うこと、を心がけました。現場活動で訓練以上の行動（攻めた動き）をしないのと同じように１回のBESTより10回のBETTERを実践しました。

心理的、肉体的状況を見極め、スタートラインに立つ瞬間までは、「圧倒的な自信」とそこに繋がる「根拠」をしっかり持ちながらも、ミスに繋がる要因が残っていないかを徹底的に確認し続けたことが、今回の結果につながったと確信しています。

私にとっての強化訓練は、消防人として、人として私を大きく成長させてくれる場でした。

また、どんな困難な災害にも屈することなく、人命救助という責務を全うするために必要とされる強靭な体力と精神力や、資器材を安全、確実、迅速に扱う技術等、消防における心・技・体を十分に養うことができる時間でした。

何より、西日本最大組織大阪市消防局代表の精鋭達と共に乗り越える夏は、今後の消防人生の何にも代えがたい財産となります。

この経験を今後も、後輩隊員へと継承していきます。

水上の部　溺者救助

難波　拓人　　北河　建　　長船　勇雅

今年の近畿地区指導会・全国消防救助技術大会では、全国２位という結果以上に、人との思いやりや繋がりの大切さを多くの場面で実感することができました。各課職員、各指導員、共に出場した選手及び生野消防署の皆様など、数え切れないほど多くの方々に支えていただき、心から感謝しています。

残念ながら全国１位という形で報告はできませんでしたが、この訓練期間を通して人との繋がりや温かさに触れることができたことは、私にとってかけがえのない財産となりました。

また、若年層職員の方々には、日々の現場活動や訓練・業務など、覚えることが多くて大変だと思いますが、救助訓練は技術だけでなく、人としても必ず得るものがあります。だからこそ、全力で訓練に取り組んでほしいと願っています。

私自身も、この経験と想いを若年層職員にも伝え、微力ながら大阪市消防局の発展に貢献できるよう、自分自身も精進し、業務遂行に励んでいきたいと思います。

生野消防署　消防士長　北河　建

第53回全国消防救助技術大会へ出場するにあたって、沢山の方々にご支援いただきました。ありがとうございました。

私は溺者救助という３人１組で行う種目に出場しました。７月の近畿地区指導会を勝ち抜いた後、８月からは全国大会へ向けた訓練が本格的に始まり、とても充実した訓練期間を過ごしました。近畿地区の代表、大阪市の代表として沢山の応援と思いを背に、本番当日は培った技術を最大限に発揮することができました。訓練期間中、共に悩み、励まし、背中を押し合いながら成長したチームメイトとの絆は、今後の消防人生の大きな財産になると感じています。

この訓練で培った沢山のことを、日々の消防業務、災害現場活動で最大限に発揮し、市民の期待に応えるべく全力を尽くします。

淀川消防署　消防士長　長船　勇雅

水上の部　水中検索救助

堤　勇樹　　難波　拓人　　松永　将信

このたび、第53回全国消防救助技術大会に出場し、全国２位という結果を収めました。これまで「日本一」を目指し訓練に取り組んできましたが、その目標には届きませんでした。しかしながら、この結果は私たちが大切にしてきた「安全・確実・迅速」を体現できた証であり、胸を張れる成果だと感じています。この成果を次なる一歩へつなげ、安全文化の醸成へ寄与できるよう、今後も警防業務に励んでまいります。

また、大会関係者の皆さま、警防課や阿倍野消防署の皆さま、そして訓練を通じて出会った仲間たちに心より感謝申し上げます。第43回大会から今日に至るまで、長年にわたりここまで育てていただき本当にありがとうございました。この経験は私にとってかけがえのない財産となりました。いつの日か、再び何らかの形でこの訓練に携わり、大阪救助の魂を永く伝承していく一助を担いたいと思います。

阿倍野消防署　消防司令補　堤　勇樹

今回、全国消防救助技術大会に出場できたことは、自分にとって大きな挑戦であり、かけがえのない経験になりました。当日は全国から集まった隊員たちと共に競い合い、その場に立てたこと自体が誇らしく、胸が熱くなる瞬間の連続でした。

ここまで来られたのは、日々の訓練を共に乗り越えてきた仲間のおかげです。厳しい訓練の中で支え合い、励まし合い、積み重ねた時間が、本番での自信につながったと感じています。

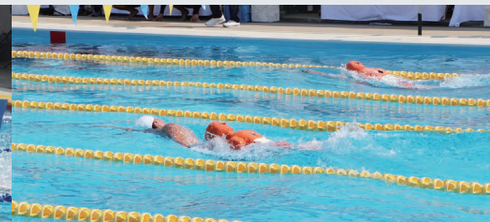
そして、指導してくださった先輩方や、応援してくれた仲間、家族の存在も大きな支えになりました。誰一人として欠けては成り立たなかったこの挑戦を、みんなと共有できたことを心から嬉しく思います。

今回の経験を糧に、これからも市民の安全・安心を守るため、一層努力を重ねてまいります。

天王寺消防署　消防士長　難波　拓人

水上の部、水中検索救助で全国消防救助技術大会へ出場させていただきました。長期間ご支援いただいた事務局、指導員、所属の皆様大変ありがとうございました。これまで全国大会へは２回挑戦しましたが、全国１位への壁は厚く、「今年こそは…！」という想いで臨みました。結果としては残念ながら２位で目標とする全国１位をつかみ取ることはできませんでした。強化訓練に参加するのは今年で４回目ということで、毎年同じ訓練をしているわけですが、毎年学ぶことはあり、年数を重ねる毎に立場も変わり自分の役割も変わってきます。隊員のまとめ方や訓練の雰囲気作り、組み立て方、分析など先輩から学ぶことは多く、自分の成長の余地をまだまだ感じました。この学びを今後に生かし、次の世代へ繋げていくことも大きな役割だと思うので、大阪市消防局の明るい未来へ向け今後も精進していきます。

大正消防署　消防士長　松永　将信



新障害突破

変更にあたっての概要

訓練中に重大な負傷事故が発生したことを契機に、更なる安全対策の強化を目的とした障害突破の実施要領変更が検討されてきました。

来年の全国消防救助技術大会から変更される予定で、大きな変更点は2つです。

1つ目は、訓練隊員の1名減少と、安全対策要員の2名増員。

2つ目は、地上から訓練塔へ登るはしご登はんと、訓練塔から地上に降下する緊急脱出時のそれぞれに確保ロープを設定することで、高所における訓練時の安全対策強化。

これらの変更点についての大阪市消防局と神戸市消防局による展示訓練が、今回の全国消防救助技術大会にて実施されました。

第53回全国消防救助技術大会においての新たな「障害突破」の展示訓練は、来年度大会に向けた安全対策の強化を目的とし、実施要領の変更点を紹介するものです。主な改正点は二つあります。第一に訓練隊員を1名削減し、安全対策要員を2名増員したこと、第二に梯子登はんや緊急脱出時に確保専用ロープを使用し、高所における安全性を一層高めたことです。

短期間での準備ではありましたが、ロープの展張方法や収容方法について繰り返し試行錯誤を重ね、訓練に取り組みました。来年度以降、各消防本部が新たな「障害突破」と真摯に向き合い、互いに切磋琢磨することで、伝統ある大会がさらに発展していくものと確信しています。昭和47年から続く歴史ある大会において、その転換点ともいえる訓練展示に参加できたことを誇りに思うとともに、ご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

東淀川消防署　消防司令補　橘　陣大郎

～　一般財団法人全国消防協会より感謝状を授与されました　～

阿倍野消防署　消防司令補　西村　健作

東淀川消防署　消防司令補　橘　陣大郎

天王寺消防署　消防司令補　田中　純平

天王寺消防署　消防士長　杉本　悠史

所属・階級は第53回全国消防救助技術大会当日時点のものです。

陸上の部　ロープブリッジ渡過

私にとって、ロープブリッジ渡過は、消防学校の実科査閲の訓練で社会人として初めて、成長した姿を地元から来てくれた両親に見せることができた思い出深い種目です。救助技術練成会では、この訓練に励み、第51回近畿地区指導会に出場することができました。しかし、思うようにタイムが縮まらず、苦汁を飲んだ夏となりました。翌年は、予選を通過できず、出場することができませんでした。その悔しさをバネに、毎当務のように講堂に張った渡過線で渡り込んできました。その結果、消防士になり10年目という節目の年で、念願の全国大会出場が叶いました。ロープブリッジ渡過で、全国大会に出場するのは1度きり。全国1位を目標とし、訓練には全力で取り組み、食事にも最大限配慮してきました。全国1位は逃しましたが、ベストを出し切り、後悔のない夏となりました。

それも応援、ご支援していただいた多くの方々のお陰です。本当にありがとうございました。

淀川消防署　消防士長　宮本　弦

水上の部　複合検索

今年を最後に廃止となる複合検索での全国1位を目指した夏で、2年ぶりに全国大会に出場することができました。私は近畿地区指導会までに一カ月を切った6月末から訓練に参加しました。人より遅い訓練スタートのため訓練時間が人より短く、その分、今まで以上に操法について考えました。自身の動画を何度も見返し、修正を繰り返し、その結果、全国大会の舞台に戻ってくることができたと思います。

残念ながら、結果は2位。あと一歩、全国1位に届かず悔しい気持ちでいっぱいです。しかし、指導員や仲間達と救助技術の向上の為に過ごしたこの夏は、私にとって大きな財産となり、今後の消防人生で必ず役立つと思います。この経験を現場活動や業務、後輩育成等に活かし、再び全国の舞台に帰ってきたいと思います。

最後になりますが、この強化訓練に携わって下さった全ての方に感謝申し上げます。

水上消防署　消防士長　窪田　琢也

4月13日の開幕以降、来場者数も増え、連日大賑わいとなった大阪・関西万博もついにフィナーレを迎えました。

万博消防センターの業務も滞りなく終えることができ、職員の皆様には心より感謝申し上げます。

今回は、そんな大阪・関西万博での国際交流の裏側を万博消防センターの目線からご紹介します。

海外スタッフ向け講習会の舞台裏

皆様ご存じのとおり、万博会場内には多くの海外スタッフが働いています。万博会場内のスタッフは、「火災」や「目の前で人が倒れた」という状況にいつ遭遇するかわかりません。そのときに慣れない国であっても、自信をもって対応できるように、海外スタッフを対象とした応急手当講習及び消火器を使用した消防訓練を実施しました。

嬉しいことに、これらの講習、訓練は各国のパビリオンからの依頼により開催が実現したものでした。このことは「来場者に安全・安心を提供する」という我々、万博消防センターの強い思いと同じ思いであることの表れであり、万博を支える裏方として、国や言葉を越えた絆を感じる出来事でした。

講習会では、心肺蘇生法を中心に、止血法、熱中症対策、徒手搬送法などを説明しました。実際に徒手搬送法を紹介すると、体格の差を感じさせず軽々と運び出す消防職員の姿に受講者から驚きの声があがりました。

さらに、火災時に欠かせない消火器の操作方法も体験してもらいました。消火器を見るのも初めてという方もおられ、貴重な経験となった様子でした。

受講者の中には日本語がわからない方も多く参加していたため、英会話ができる消防職員が通訳を行い、身振り手振りを交えて講習会を進めました。

北欧館にて実施した応急手当講習

アメリカパビリオンスタッフの徒手搬送体験

明るく積極的な外国人は多く、その前向きな受講姿勢により講習会は盛り上がり、我々職員にとっても刺激的な時間となりました。

また、講習会終了後には、感謝の気持ちとしてパビリオンスタッフからピンバッジがプレゼントされるなど、国際的な交流を深める貴重な機会にもなりました。

この講習を通じて笑顔と学びが生まれ、万博の安全・安心を支えるひとコマとして、心に残る体験となりました。

アメリカパビリオンスタッフとの記念撮影

異文化が交わる万博の救急現場レポート

会場内では、さまざまな救急事案が発生しました。そのうち、外国人対応の救急事案は速報値ですが、全体の約7%という結果でした。数字だけをみると少なく感じますが、その内容はまさに「国際色豊か!!」

日本の常識が通じないことも多く、聞きなれない言葉で「なぜ、すぐに病院へ行かないの?!」と日本の救急医療体制などについて疑問を投げかけられることもありました。そのたびに言葉の壁、表現やニュアンスの違い、宗教の違いなどに悩まされました。さらに、会場内には衆人観視が多く、プライバシー保護も大きな問題のひとつでした。このような圧倒的に困難な状況下でも、万博消防センター救急隊は、これまで培ってきたコミュニケーション能力という手腕を発揮し、日頃の救急活動と変わらずに、様々な事案に対応することができました。言葉の違いに限らず、困難なことは数多くありましたが、最終的には同じ人間同士！真摯に向き合う姿勢と笑顔は世界共通だと感じました。

今回の経験は、これからの国際化社会における、日本の大都市のひとつである「大阪」の救急隊として、今後の活動に活かしていきたいと思います。

しかし、これだけは言わせてください。

「救急隊員のみなさん、現状に甘んじることなく語学を身につけよう!!」

184日間　おおきに！　＼2025年 大阪・関西万博／
～ 万博消防センター発。世界中の人々との国際交流 ～

万博の火災を未然に防いだ縁の下の力持ち

皆様は、万博消防センターに会場内の消防設備に精通した予防担当の職員がいたことをご存知でしたか?

万博消防センターの予防担当には大阪市消防局以外の大阪府内の消防職員も所属(研修の一環で支援)していました。彼らは、万博会場を火災から守るために、万博が開幕する数年前から継続して火災予防のための取組を行い、万博閉幕まで、ともに万博会場内の予防業務を担ってきました。

火災予防という分野は、専門用語が多く用いられるため説明が行いにくく、理解しづらい状況となり、海外パビリオンの関係者との調整は困難を極めました。

特に消防設備の基準や運用方法をひとつひとつ丁寧に説明し、理解していただくことは、容易なものではありませんでした。

しかし、各国の防火認識や言葉の違い、という大きな壁を乗り越え、予防担当職員の粘り強い努力によって、それらは着実に形となり、大屋根リングに匹敵する大きな火災予防の輪となりました。

海外パビリオン関係者と
予防担当職員

まさに、「見えないところで安全・安心を支える」縁の下の力持ちとして万博会場内で活躍した予防担当でした。

また、予防担当職員の厳しくも、親身に寄り添う姿勢は海外パビリオンの関係者からも受け入れられ、立入検査が和やかな国際交流の場となることも多くありました。

❖ 国際交流　番外編 ❖

ヨハン・ヴァーデフール　ドイツ外務大臣と感動の再会

グーテンタック！（こんにちは！）

消防とはあまり関係ありませんが、万博ならではの素敵な交流がありました。

万博開催期間中、ドイツ連邦共和国のヨハン・ヴァーデフール外務大臣と一人の日本人消防職員の約10年ぶりの再会について本人からご紹介します。

私が、外相家族と初めてお会いしたのは、真冬の神戸三宮でした。バス停を探して道に迷っていた外相を道案内して、バスが来るまでの間、一緒にお話ししながら待ったことがきっかけとなり、お互いに近況報告を兼ねたメールを年に1～2回交わす仲になりました。

万博開幕後間もなく、外務大臣就任のニュースを見かけ、お祝いメールを送ると、8月に万博会場を訪問する為、久しぶりに再会しよう、と大臣のほうから申し出てくださいました。

再会した場所は大阪・関西万博のドイツパビリオンVIPラウンジでした。まずはメラニー・ザクシンガー大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事から歓待を受けました。総領事へ自己紹介をして、大臣とお会いした経緯やお互いの家族についてお話した後、外相のもとへ総領事が案内してくださり、外相と約10年ぶりの再会を果たすことができました。固い雰囲気での再会になるかと想像していた私は、外相の温かくも熱烈な歓迎に驚きつつも、ようやく実現した久しぶりの再会に思わず目頭が熱くなりました。

その後、中央区で発生した職員殉職事案についてのお悔みや消防局全職員の貢献に感謝と尊敬を表してくださいました。

最後に、次の桜の季節に再会することを約束してお別れしました。

情けは人の為ならずということわざがありますが、ことわざ通りの出来事になりました。

10年分の近況報告をする
再会した2人

大阪ウィーク「未来の消防活動の展示」開催

万博開催期間中、大阪ヘルスケアパビリオンリボーンステージにて、大阪ウィークイベントを計3回開催しました。8月号では、大阪ウィーク～春～のイベントの様子をお伝えしました。

今月は、春開催に続き、大阪ウィーク～夏～ 7月25日開催大阪ウィーク～秋～ 9月11日開催について特集します。

体験・展示ブースについて

春イベントに引き続き、夏・秋イベントでも、未来の消防を体験していただけるブースを数多くご用意しました。傷病者の手首に装着し、バイタルを測ることができるデジタルのトリアージタグや、災害現場の情報を一括管理できるDX指揮卓、冷却機能を備えた未来型の外套などを展示し、現場の課題などを交えながら、未来の資器材について、来場者の皆様に説明しました。

未来の消防車両や資器材を展示することで、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を来場者の皆様に体験していただくことができました。

また、春イベントの際にご要望が多かった、消防服を着用できる写真撮影ブースを設置し、小さなお子様から外国人の方まで多くの方に体験していただきました。消防服を着用した来場者の方からは、「こんな分厚い服を着て活動しているんですね。頑張ってください」などのお声をいただき、普段は、会場のバックヤードで勤務する大阪・関西万博消防センター職員と来場者の方が交流できる数少ない貴重な機会となりました。

ヘルメットに装着した赤外線カメラの体験

トリアージタグの紹介

写真撮影ブース

未来型外套の紹介

184日間　おおきに！　＼2025年 大阪・関西万博／
～ 万博消防センター発。世界中の人々との国際交流 ～

胸骨圧迫体験

マイナ救急の紹介

VRを使用した避難体験

調査鑑識による火災予防の出前講座

新猿楽「火水火水 KAMIGAMI」の公演

LIVE映像119の体験

ステージイベントについて

体験・展示ブースの他に、リボーンステージにて様々な消防イベントを実施しました。

ステージイベントでは、当局の最新の取組や、未来の消防を体験していただき、「災害に強いまち・安全な都市」を世界中の方にPRすることができました。

〈イベント一覧〉
- ○マイナ救急紹介
- ○胸骨圧迫体験
- ○救急クイズ
- ○調査鑑識による火災予防の出前講座
- ○VR避難体験
- ○LIVE映像119紹介
- ○新猿楽（しんさるがく）「火水火水　KAMIGAMI」公演

さいごに

今回は、大阪ヘルスケアパビリオンリボーンステージにて、春に続き、夏、秋、と開催した、大阪ウィーク「未来の消防活動の展示」についてご紹介しました。

イベントでは、お越しになられた皆様に未来の消防活動を体験していただいたほか、火災予防や予防救急についても知っていただくことができました。

次回は、大阪・関西万博特集最終号となります。大阪・関西万博消防センターの軌跡を振り返ります。